

はじめに

すべての救急搬送で救急救命士が『できないといけない』ことは2つしかありません。

1. 必要な情報を集めること

2. 適切な病院へ搬送すること

さらにすべての救急搬送で救急救命士が現場で『できなくてもいい』ことは1つだけ、

診断をつけること

そこで救急救命士の仕事は一言で言うと

診断がつかなくても 集めた情報から適切な病院へ搬送する

ということになります。

このように言うことは簡単ですが、現場の皆さんはこれがいかに難しいか身をもって知っているでしょう。「それができたら苦労しないよ!」という声が聞こえてきます。そこで本書では、この難題を解決するために必要な現場の情報が何かをハッキリさせます。

救命士目線でどのような情報を集めれば、搬送病院を決定できるかを詳しく解説。必要な情報は病態ごとに異なりますので、さまざまな病態をテーマごとに丁寧にヒモ解いてゆきます。

読者は事例を通じて、患者接触から病院選定までを疑似体験できます。憧れのベテラン救命士の思考過程を言語化することで、読後には類似症例で自然と体が動くようになるはずです。

事例の最後に到着後に医師がどのように診断しているかを解説します。どのような現場情報があると診断に役立つか知っていれば、現場活動にやり甲斐が増えモチベーションが上がります。

本書ではこのような、いままで誰も教えてくれなかった搬送現場のギモンを余すところなく解説します。

読後は…

**適切な情報を集め、
適切な病院へ搬送できる救急救命士**

になれることを確約いたします！！

2019年1月

札幌東徳洲会病院救急科
増井伸高